食肉に関するニュースを確実、迅速にお届けする日刊紙

※土日祝・休刊

令和8年
2026年
5月29日
金曜日
第11959号

食肉速報
THE DAILY MEAT NEWS

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可
購読料〈前納〉
年間 82,080円
（税込み）
6カ月 42,120円
（税込み）
本紙は関連企業・団体とのタイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
https://www.shokuniku.co.jp/

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995

CONTENTS

食肉加工4団体が総会を開催した……P2～3

注目のヘッドライン

食肉加工４団体が総会、ハム組合および公取協の新理事長・新会長に井川氏 加工協会と食肉科研の合併を承認

加工協、ハム組合、公取協、食肉科研の食肉加工4団体は27日、名古屋市のホテルメルパルク名古屋で合同総会を開催した。

…詳細はP2～3

［食肉輸入通関・４月］主要畜肉で前年超え、豚肉は２桁増続く

…詳細はP3

▶食肉加工4団体が総会、ハム組合および公取協の新理事長・会長に井川氏が就任、加工協会と食肉科研の合併を承認、統合日は6月1日 …P2～3

▶［食肉輸入通関・4月］主要畜肉で前年超え、豚肉は2桁増続く …… P3

▶オリメル社のジャーベイスCEO、リベストCOO（次期CEO）が来日㊦日本の顧客ニーズを可能な限り深く理解することが重要 ……P4～5

▶［牛肉輸入通関・4月］合計5万5357tで前年同月比4・2%増 …… P5

▶［豚肉輸入通関・4月］計10万3369ｔで前年同月比1割増 …… P6

▶東京市場卸商組合が総会、役員改選では野本理事長ら全理事・監事を再任 ……P6～7

▶肉事協が通常総代会開催、新理事長に山領綱春氏（宮崎県） …… P7

▶鶏肉加工の省力化へ一石、なんつねが新機種説明会、高精度・コンパクト仕様の「テミス」発売、具体的な費用対効果などを解説 …… P8

▶マキヤが神戸物産と業務提携、両者の仕入れネットワークを活用 …… P8

▶［輸入牛現物相場］相場は変わらずだが、荷動きは停滞 …… P9

▶［ブロイラー市中現物相場］輸入物ブラジル産、タイ産とも軟調 …… P9

▶［東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数］28日 …P10

▶［各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場］28日 ‥P11

りんご和牛
信州牛
登録商標 第1394040号
信州プレミアム牛肉
登録商標 第5282895号 第5282894号
信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売
健康と食生活を演出する
ビセラル株式会社
〒123-0865 東京都足立区新田 2-8-12
営業一課／☎(03)3919-2929 FAX(03)3919-2930
総　務／☎(03)3919-2980 FAX(03)3919-2941
http://www.visceral.co.jp

食肉加工４団体が総会、ハム組合および公取協の新理事長・会長に井川氏
加工協会と食肉科研の合併を承認、統合日は６月１日

日本食肉加工協会（木藤哲大理事長）、日本ハム・ソーセージ工業協同組合（同理事長）、ハム・ソーセージ類公正取引協議会（同会長）、食肉科学技術研究所（小原健児理事長＝写真）の食肉加工4団体は27日、名古屋市のホテルメルパルク名古屋で合同総会を開催し、各団体の令和7年度事業報告および収支決算、令和8年度事業計画および収支決算を承認した。任期満了に伴う理事選出、その後の互選役員会で役付役員が決定され、日本ハム・ソーセージ工業協同組合ならびにハム・ソーセージ類公正取引協議会の新理事長・会長に井川伸久氏が就任した。

また、特別決議として日本食肉加工協会と食肉科学技術研究所の統合について議案審議され、承認された。統合日は6月1日。統合方式については、食肉科研は食品衛生法に基づく登録検査機関、日本農林規格などに関する法律に基づく登録認証機関であるため、これら機関として実施する業務を統合法人へ円滑に移行することを考慮し、食肉科研を存続法人、加工協を消滅法人として統合。合併後の法人名称は一般㈳日本食肉加工協会となる。このことから、食肉科研の選任役員は6月1日付で加工協会（合併後新団体）の役員となる。

総会審議に先立ち、木藤理事長は「世界情勢はホルムズ海峡の封鎖により中東からの輸送ルートが阻まれ、ますます事態は緊迫化している。食肉加工業界としては、燃油ならびに包装資材に用いる石油化学製品の安定供給の確保は喫緊の課題となっている。高市政権では政府一体となって原油の輸入元の確保、ナフサの安定供給に向けて取り組んでおり、問題の把握に努めているが、需要者側としても平時の取引を逸脱する発注は厳しい状況であり、この先行きを注視している」

「このような状況の中、当業界においてもコストプッシュ型の価格改定に対して消費者の生活防衛意識の高まり、根強い節約志向の影響は大きく、少子高齢化もあり、食肉加工品の年間生産量については7年連続で減少し、令和7年度は平成20年以来17年ぶりに50万tを割り込む結果となった。消費拡大には、価値を創造し、利益を上げていくかが問われている。今後

も会員・組合員相互の連携をこれまで以上に深め、業界の発展、各企業の発展に資するよう全力を挙げて取り組んでいく」とあいさつ。

加工協と公取協は木藤哲大理事長を議長に塩島勉専務理事が、またハム組合は木藤理事長が議長を務め、強谷雅彦専務理事が、食肉科研は小原健児理事長が議長を務め、吉田由香専務理事がそれぞれ事業報告・事業計画および収支決算・収支予算などについて説明。満場一致で承認された。

来賓を代表して、農水省畜産局食肉鶏卵課の伊藤大介課長、消費者庁表示対策課の駒沢賢治課長補佐、公正取引委員会事務総局中部事務所取引課の沼上和秀課長が、それぞれの立場で祝辞を述べた。

表彰式では、優良従業員（30年以上勤続者、20年以上勤務者）、JAS優良工場、資材あっせん目標額達成組合員の代表者に表彰状が授与された。

総会終了後の懇親会の冒頭、小原理事長は「今回の総会では、食肉科研および加工協の合併が議案審議され、合併関係の各議案が無事に承認されたことに正直ほっとしている。今回の合併の検討に際しては、1年余りにわたって慎重に議論され、正副理事長、関係官庁をはじめ関係者、また何より会員の方々には深く感謝している。新協会は6月1日からスタートするが、これまで以上に会員にとって価値ある団体であり続けることが重要と考えている。このため、新協会の今

後の運営については、特に3点に注力する。①今回の合併は財務問題に端を発していることから、健全な財政体制の下で安定的に組織運営する②業務範囲の広がりに伴ってさまざまな専門知識を有する専門家集団になることで、会員からのニーズを拾い上げ、迅速・的確に対応する③加工協と食肉科研のそれぞれの強みを有機的に連携させ、相乗効果を生むような取り組みを進める。これらの取り組みにより、これまで以上に業界の発展に貢献していく。会員には温かい支援と協力を引き続きお願いする」と新協会の今後の取り組みと抱負を述べた。

続いて、日本食肉協議会の本川一善会長から新団体への期待が述べられた。開催県の杉本食肉産業の杉本豊繁名誉会長が乾杯の音頭を取り祝宴となった。

各団体の役付役員ならびに新任理事・新任監事は次の各氏。

【ハム組合】　理事長　井川伸久（新任）▷副理事長　阿部邦明（新任）、伊藤功一、竹内裕嗣（新任）、中田二郎▷専務理事　強谷雅彦▷常務理事　佐々木康成、杉本豊繁▷代表理事監事　吉野裕彦、儀間浩（新任）、竹田昌弘（新任）、福原治彦（新任）

【公取協】　会長　井川伸久（新任）▷副会長　阿部邦明、伊藤功一、佐藤勇二、竹内裕嗣、中田二郎、守谷通▷専務理事　吉田由香（新任）▷常務理事　佐々木康成、杉本豊繁、強谷雅彦、瀧澤太郎、松井陽樹▷理事　中村哲也（新任）▷監事　福島賢一郎、吉野裕彦、儀間浩、竹田昌弘、福原治彦

【食肉科研】　理事長　小原健児▷副理事長　井川伸久（新任）、佐藤勇二、守谷通（新任）▷専務理事　吉田由香▷常務理事　瀧澤太郎、松井陽樹▷理事　内田達也、守谷通▷代表監事　西島一之、竹内淳、福島賢一郎（新任）、森田幸雄（新任）

［食肉輸入通関・４月］主要畜肉で前年超え、豚肉は２桁増続く

財務省が公表した4月の貿易統計によると、主要な畜肉の輸入通関量は、いずれも2カ月連続で前年同月を上回った。

牛肉は5万5357ｔ（前年同月比4・2％増）で、このうちチルドは1万6003ｔ（7・7％増）と共に増加。牛くず肉は8338ｔ（3・5％増）と9カ月連続で前年を上回っている。豚肉は10万3369ｔ（10・0％増）と2カ月連続で2桁の伸び、このうちチルドも3万6456ｔ（1・6％増）と、13カ月連続で前年を上回った。

鶏肉は前年同月に大きく下げた反動もあり5万1934ｔ（8・8％増）と増加した。その他、羊肉は2533ｔ（5・0％増）と5カ月連続で伸びており、馬肉も391ｔ（2・6％増）と増加している。

4月の食肉輸入通関実績　　単位：トン、％

年・月		牛肉	（うちチルド）	牛くず肉	豚肉	（うちチルド）	鶏肉	羊肉	馬肉
2026年	4月	53,125	14,860	8,056	93,992	35,868	47,714	2,412	381
	5月	48,428	16,242	6,963	90,535	34,523	48,537	2,239	445
	6月	42,244	14,115	6,491	83,787	32,038	51,556	2,286	315
25年上半期累計		236,712	83,014	38,044	486,841	195,587	290,101	11,322	2,255
	7月	46,941	17,109	7,295	82,783	34,194	48,245	2,119	451
	8月	43,221	14,965	8,879	74,070	30,359	49,613	1,898	229
	9月	38,344	13,072	6,796	76,279	34,058	57,773	1,493	387
	10月	49,185	16,564	7,298	84,953	38,494	57,322	1,373	455
	11月	38,732	12,137	6,040	65,353	30,816	43,087	1,318	306
	12月	43,030	16,619	7,169	68,401	34,659	45,351	1,656	436
25年累計		496,165	173,480	81,521	938,680	398,167	591,492	21,179	4,519
2026年	1月	39,760	13,720	7,182	83,160	36,154	46,822	2,262	311
	2月	30,712	9,889	5,483	65,538	33,141	46,231	1,730	224
	3月	34,514	13,852	6,579	76,874	41,129	48,088	2,159	462
	4月	55,357	16,003	8,338	103,369	36,456	51,934	2,533	391
	前年同月比	104.2	107.7	103.5	110.0	101.6	108.8	105.0	102.6
26年累計		160,343	53,464	27,582	328,940	146,880	193,075	8,685	1,387
	前年同期比	109.8	101.5	112.2	105.3	113.8	101.6	127.8	92.7

オリメル社のジャーベイス CEO、リベスト COO（次期 CEO）が来日㊦
日本の顧客ニーズを可能な限り深く理解することが重要

【リベストCOOにきく】

――2015年のバイスプレジデント就任当時、日本におけるカナダ産チルドポークのシェアは38%でしたが、25年には55%まで拡大。カナダ産チルドポークは日本市場でナンバー1のシェアとなりました。この成長の最前線で、重要な役割を果たされてきましたが、カナダ産チルドポークが日本市場でシェアを拡大できた理由をどのように分析されますか。また、最も大切にされてきた考え方や価値観をおきかせください。

当時は日本向け販売数量が低迷していた頃であり、対日輸出拡大が私の使命の一つでもあった。具体的には今後3～4年で販売数量を2倍に拡大するという使命が課せられた。最初に取り組んだことは、カナダと日本の双方で優れたチームを構築し、数多く話し合うようにした。また、私自身も就任後の2年間で10回ほど訪日し、日本の顧客や市場について可能な限り学ぶように心がけた。その経験を通じて、オリメルの経営方針はより明確になった。16年にはヤマシシ工場を取得。既存工場を拡張するだけでなく、5カ年計画を立ち上げ、新たな工場を取得することにより、チルドポークの規模拡大を図ることができた。また、1994年以来、私たちは常に豚肉の品質向上に取り組んできたが、一方でコマーシャル面の強化が必要であることにも気付いた。そのため、日本の顧客と何度も議論を重ね、求められる飼料やブランド戦略について、一丸となって検討を進めてきた。その結果、カナダポークは高品質であり、ブランド化や特別肥育プログラムなどで差別化を図ってきたことも、日本市場でシェアを拡大できた要因だと考えている。

――近年はトランプ関税、ウクライナや中東情勢などを背景に、世界全体が自由貿易から保護主義・ブロック経済へ向かう流れもみられます。一方、そのような中でも日本は、自由で開かれた市場を重視している国の一つです。オリメルは、日本市場をどのようなマーケットとして位置付けていますか。今後の日本市場に対する戦略ビジョンや重点施策をおきかせください。また、日本以外で、今後拡大が期待される市場や注目する市場はありますか。

現在、世界中でさまざまな変化や課題が起こっているが、日本はビジネス面において非常に安定した重要な市場であり、私たちはそのことに心から感謝している。日本は30年前から当社にとって重要な市場と位置付けられており、その考えは現在も全く変わっていない。一方、市場環境は10年前と比べて大きく変化しており、当社もその変化に対応していく必要がある。その中で、私たちのパートナーシップの素晴らしい点は、引き続き協力関係を維持しながら課題や問題を共有し、共に関係をさらに深めていけることだ。そして、最高の商品を日本の消費者の皆さまへ届け続けることが、私たち共通の目標だと考えている。日本の消費者は安全・安心な商品を求めている。これからも日本のパートナーと協力しながら、安全・安心な豚肉を日本市場へ送り続けたい。

また、当社は韓国でも現地に事務所を構え、日本と同様、顧客との信頼関係構築に努めている。20年に韓国向けチルドポークの輸出を開始して以来、パートナー企業だけでなく、消費者の需要やニーズに耳を傾けながらマーケティング活動を行っている。さらに台湾についても新たな重要市場として捉えており、チルドポークの輸出を開始。カナダ産チルドポークではオリメルが最初の輸出者となった。次のターゲットは香港だ。私たちの仕事は、単に商品を販売することだけではない。信頼関係の構築、責任ある取り組み、透明性のあるコミュニケーション、そして日本の顧客ニーズを可能な限り深く理解することが重要であると考えている。

――日本では円安やエネルギー価格、食品価格上昇により、インフレが社会的な課題となっており、消費者の節約志向の高まりから、より価格重視の商品への需要が高まっています。こうした市場環境に対し、オリメルとして今後どのような戦略で対応しますか。

現在日本が置かれている状況については、少なからず懸念を抱いている。また、これは日本だけの問題ではなく、北米を含め、世界中で共通してみられる傾向であると認識している。10年前は日本向けチルドポークのコンテナの約50%がロインだったが、今ではピクニックやモモなどのスソ物がコンテナの約半数を占めるようになっており、インフレの影響で消費者の需要が価格重視の商品へ移行している結果だと考えてい

る。このような環境や市況の変化に対して、当社としてはより価格を抑えた商品についても価値を感じていただけるような商品の提供を進めていきたいと考えている。また、今後市場環境が改善し、ベリーやバットの需要が拡大した際には、そのニーズにも柔軟かつ確実に対応していきたい。

――カナダと日本は共にCPTPP加盟国として、自由で開かれた貿易を尊重しています。27年度にはハム、ベーコンなど加工品の関税撤廃も予定されています。今後の日本市場に期待すること、また日本のパートナーとどのような価値を共有しながら成長していきたいと考えているか、おきかせください。

オリメルは現在約50カ国へ輸出している。各国の需要に加えて関税率も戦略上で重要な要素だ。日本においてはCPTPPにより、27年度にはソーセージ、ベーコン、ハムなどの加工肉の関税率が無税になる予定だ。これは、当社および競合他社において、より開かれた市場となることを示す。オリメルではさまざまな種類の加工品の製造が可能であり、27年度に向けて当社のパートナーと協力しながら日本向け商品を開発し、マーケティングを進めていきたいと考えている。（連載終わり）

［牛肉輸入通関・４月］合計５万5357tで前年同月比４・2%増

4月の牛肉通関数量は5万5357t（前年同月比4・2%増）と、前年同月を上回った。内訳は、チルドが1万6003t（7・7%増）、フローズンが3万9354t（2・8%増）と共に増加した。

国別にみると、豪州は前月から大幅に増加し計2万9341t（21・5%増）となり、前年同月に比べて2桁増となった。うちチルドは8647t（23・7%増）、フローズンは2万694t（20・6%増）と共に前年同月に比べ大幅に増加している。

一方、米国は前月から大幅に増加し計1万9982t（1・8%減）となったが、前年割れになった。うちチルドは5794t（9・6%減）と減少したのに対し、フローズンは1万4188t（1・8%増）と増加した。

また、カナダは合計2291t（38・0%減）、ニュージーランドは合計2400t（17・6%減）、表外だがメキシコは合計723t（16・1%減）と、それぞれ前年同月から大きく減少している。

2026年4月の牛肉輸入量　　単位：トン、円、%

			豪州	米国	NZ	カナダ	計 その他国含む
チルド	ボンイン	枝肉・半丸	－ [－]	－ [－]	－ [－]	－ [－]	－ [－]
		その他	0	73	1	－	81
	ボンレス	ロイン	1,074 [2,575]	380 [2,433]	110 [3,133]	52 [2,027]	1,703 [2,544]
		カタ・ウデ・モモ	5,682 [1,431]	1,135 [1,953]	456 [1,491]	214 [1,759]	7,491 [1,523]
		バラ	1,684 [1,122]	4,193 [1,084]	146 [1,414]	411 [893]	6,498 [1,088]
		その他	207	13	2	8	230
	小計		8,647 (123.7)	5,794 (90.4)	715 (104.4)	685 (142.4)	16,003 (107.7)
	累計		27,672 (111.4)	20,200 (88.5)	2,137 (96.5)	2,878 (155.2)	53,464 (101.5)
フローズン	ボンイン	枝・半丸4分体	－ [－]	－ [－]	－ [－]	－ [－]	－ [－]
		その他	1	1	－	－	12
	ボンレス	ロイン	495 [1,468]	144 [748]	68 [1,511]	－ [－]	781 [1,389]
		カタ・ウデ・モモ	1,949 [1,293]	402 [1,458]	376 [1,278]	142 [1,347]	3,250 [1,297]
		バラ	1,232 [891]	13,162 [763]	77 [1,149]	1,464 [703]	16,419 [777]
		その他	17,016	479	1,164	－	18,891
	小計		20,694 (120.6)	14,188 (101.8)	1,685 (75.6)	1,606 (50.0)	39,354 (102.8)
	累計		54,191 (126.9)	38,181 (118.7)	5,462 (96.0)	5,539 (70.0)	106,880 (114.5)
合計			29,341 (121.5)	19,982 (98.2)	2,400 (82.4)	2,291 (62.0)	55,357 (104.2)
1～4月累計			81,863 (121.2)	58,381 (106.2)	7,599 (96.2)	8,417 (86.1)	160,344 (109.8)

注：［ ］内はキロ当たり単価、（ ）内は前年同月比

［豚肉輸入通関・４月］計 10 万 3369 t で前年同月比 1 割増

4月の豚肉通関数量は計10万3369t（前年同月比10・0%増）と、前年同月から1割増加し、10万tを超えた。内訳は、チルドが3万6456t（1・6%増）、フローズンは6万6913t（15・1%増）と大きく増加した。

チルドの国別は、カナダが2万197t（1・5%減）、米国が1万1746t（3・2%増）。また、メキシコは4511t（13・5%増）と、大きく増加している。

一方、フローズンの国別は、ブラジルが1万6137t（33・1%増）と前年同月比で3割を超える増加となった。また、米国も1万1861t（80・7%増）と引き続き大幅に増加。そのほか、スペインが9111t（45・5%減）、カナダが6015t（12・1%増）、デンマークが5396t（38・3%増）、メキシコが5104t（16・5%減）、チリが4075t（37・1%増）となった。

その他ではオランダが3977t、フランスが2213t、アイルランドが1084t、英国が867t、ポルトガルが452t、フィンランドが252t、ベルギーが240t、オーストリアが128t、豪州が1490kgとなった。

2026年4月の豚肉輸入量　　単位：トン、%

			米国	デンマーク	カナダ	チリ	メキシコ	スペイン	ブラジル	計 その他国含む
チルド	枝肉		− −	− −	− −	− −	− −	− −	− −	0 1
チルド	骨付モモ・肩肉		− −	− −	89 317	− −	− −	− 0	− −	89 317
チルド	部分肉（ボンレス）	従量税	− −	− −	63 74	− −	− −	− −	− −	63 74
チルド	部分肉（ボンレス）	従価税	11,746 48,223	− −	20,044 79,421	− −	4,511 18,828	− 10	− 1	36,303 146,488
チルド	部分肉（ボンレス）	小計	11,746	−	20,107	−	4,511	−	−	36,366
チルド	部分肉（ボンレス）	累計	48,223	−	79,494	−	18,828	10	1	146,562
チルド	小計		11,746 (103.2)	− (−)	20,197 (98.5)	− (−)	4,511 (113.5)	− (−)	− (−)	36,456 (101.6)
チルド	累計		48,223 (102.6)	− (−)	79,811 (116.4)	− (−)	18,828 (140.0)	11 (83.8)	1 (−)	146,879 (113.8)
フローズン	枝肉		− −	− −	− −	− −	− −	2 2	− −	2 2
フローズン	骨付モモ・肩肉		0 1	− −	14 78	79 211	117 495	27 60	22 42	284 968
フローズン	部分肉（ボンレス）	従量税	1,041 4,498	49 98	48 535	24 24	− −	− 16	1,278 5,531	2,511 10,798
フローズン	部分肉（ボンレス）	従価税	10,820 24,373	5,347 11,816	5,818 14,800	3,972 12,388	4,987 18,203	9,082 29,408	14,837 41,916	63,958 169,797
フローズン	部分肉（ボンレス）	小計	11,861	5,396	6,001	3,996	4,987	9,082	16,115	66,627
フローズン	部分肉（ボンレス）	累計	28,919	11,914	15,658	12,413	18,203	29,526	47,447	181,092
フローズン	小計		11,861 (180.7)	5,396 (138.3)	6,015 (112.1)	4,075 (137.1)	5,104 (83.5)	9,111 (54.5)	16,137 (133.1)	66,913 (115.1)
フローズン	累計		28,920 (156.1)	11,914 (88.7)	15,737 (119.4)	12,623 (111.3)	18,698 (98.2)	29,588 (52.0)	47,488 (125.9)	182,062 (99.2)
合計			23,608 (131.6)	5,396 (138.3)	26,212 (101.3)	4,075 (137.1)	9,615 (95.3)	9,111 (54.5)	16,137 (133.1)	103,369 (110.0)
1～4月累計			77,143 (117.7)	11,914 (88.7)	95,548 (116.9)	12,623 (111.3)	37,527 (115.5)	29,599 (52.0)	47,489 (125.9)	328,940 (105.3)

注：四捨五入、上段は当月、下段は累計、（ ）内は前年同月比

東京市場卸商組合が総会、役員改選では野本理事長ら全理事・監事を再任

東京食肉市場卸商協同組合（野本照雄理事長＝写真）は27日、第59回通常総会を東京食肉市場センタービルで開催。令和7年度事業報告、8年度事業計画など上程全議案を承認した。また、任期満了に伴う理事・監事の改選では、野本理事長をはじめ、全理事・監事を再任した。

野本理事長はあいさつの中で「インバウンド需要は堅調に推移しており、多くの観光客が日本食を楽しみにしている。特に和牛は日本を代表するプレミアム食材として、世界にその名を轟かせている」と述べ、「東京食肉市場でも施設改修などを随時進めている中で、今後は台湾やシンガポールといった和牛需要が堅調な国々への輸出認定施設として、芝浦ブランドの高品質な食肉を供給していくことが期待されている。当組合としても仲卸業者が海外という市場に向けて取り組んでいく際には、開設者である東京都、市場会社、関係団体などと連携しながら"オール芝浦"で取り組む」と強調。さらに「生産者が再生産の意欲を持てるような商売をしなければ、生産基盤を維持することはできない。当組合も生産者と消費

者をつなぐ存在である市場の関係団体として、業界発展に貢献していきたい」と意欲を述べた。

7年度の東京食肉市場の取扱実績は、牛の生体集荷では9万頭（前年並み）と各種の集荷奨励策による重点的な集荷対策などが一定の効果をみせ、総取扱金額は1414億5千万円と前年比50億5千万円増となった。一方、豚肉の集荷では生体は21万9500頭となり、搬入との合計で22万2200頭と前年比3900頭の減少。総取扱金額は114億4千万円（前年比5・6%減）となった。

同組合では、8年度も各銘柄共励会などにおける産地との交流会に積極的に参加し、生産出荷情報の吸収と消費地情報の提供を積極的に行うなど、市場会社の集荷強化策と協働しながら、厳しい集荷競争に対処し、成果に結びつけていく方針。さらに施設管理運用、保証および金融、教育および情報、福利厚生などの事業を実施していく。また、その他事業のうち、牛肉の輸出促進活動については、改修工事を終えたCラインを軸として東京食肉市場独自の課題に取り組み、台湾、シンガポール輸出に向けて、海外市場における流通事業の分析やジャパン・ブランド確立に向けた動きなどを的確に捉えながら情報提供を行う。合わせて日本畜産物輸出協会を通じて行政および関係機関への要請・要望を実施していく予定。

肉事協が通常総代会開催、新理事長に山領綱春氏（宮崎県）

全国肉牛事業協同組合は27日、東京都千代田区の都市センターホテルで令和8年度通常総代会を開催した。開会のあいさつで佐々木信弘理事長（下写真）は「配合飼料、粗飼料、燃油などが高止まり傾向にあり、国際紛争に伴う国際的需給と物流の混乱、円安などの肉用牛生産を取り巻く厳しい情勢を踏まえ、当組合においても『収益性の高い再生産可能な経営』を目標に掲げ、生産コストの低減を図るとともに、畜産・酪農収益力強化整備特別対策事業などを活用し、組合員の経営体質強化や経営安定などに万全を期す」と述べた。来賓からは農水省の山本啓介政務官、農畜産業振興機構の天羽隆理事長が祝辞を述べた。

議事に移り、令和7年度事業報告、8年度事業計画および予算収支計画などが承認された。佐々木会長ら役員の任期満了に伴い、新たな役員が選任され、理事会を経て、新たな理事長に山領綱春氏（写真右から2人目、宮崎県）、副会長に千葉忠浩氏（宮城県）、平林勲氏（群馬県）、夏目勇人氏（静岡県）が就いた。北池隆専務理事（学識経験者）が再任され、常務理事に近江義和氏（北海道）、藤原久紀氏（北海道）、斉藤正彦氏（山形県）、佐藤秀彌氏（山形県）、坂本幸広氏（栃木県）、加藤勝也氏（三重県）、村部昌之氏（徳島県）、有田耕一氏（熊本県）、長谷部将一氏（宮崎県）が就いた。

総代会後に行われた懇親会では、江藤拓衆議院議員、坂本哲司衆議院議員、宮下一郎衆議院議員ら多くの来賓が祝辞を述べ、一般㈳家畜改良事業団の富田育稔理事長が乾杯の発声を行い、活発な情報交換が図られた。

[訂正]本紙5月27日付2面に掲載の全国食肉事業協同組合連合会の記事中、鈴木貴子参議院議員は衆議院議員、3面・全肉連総会の農畜産行振興機構は農畜産業振興機構の誤りです。おわびして訂正します。

鶏肉加工の省力化へ一石、なんつねが新機種説明会、高精度・コンパクト仕様の「テミス」発売、具体的な費用対効果などを解説

㈱なんつねは、今年5月に発売を開始した最新の鶏肉ポーションカッター「テミス（CPC-180）」のオンライン製品説明会を、6月25日と7月8日の2日間にわたり開催する。深刻化する現場の人手不足やコスト高騰への具体的な解決策を、実機動画や詳細なコストシミュレーションを交えて提示する。

現在、食品加工業界では人件費の高騰や原材料コストの増加に加え、深刻な労働力不足が事業継続の大きな課題となっている。特に鶏肉のカテゴリーにおいては、節約志向が高まる中、鶏肉加工品の需要は堅調さが続いており、より効率性や利便性を求める現場からのニーズが高まっている状況だ。

こうした課題に対し、なんつねが打ち出したのが「シンプルかつコンパクト」を開発コンセプトに据えた新型の鶏肉ポーションカッター「テミス」だ。同機は、長さ914×幅1800×高さ1515㎜という省スペース設計でありながら、正肉で最大毎時約1600㎏、角切りで同約400㎏という極めて高い処理能力を誇る。さらに、既存の大型機と同等の高い重量精度と歩留まりを維持しつつ、導入しやすい価格帯と現場視点の簡単な操作性、優れた清掃性を実現した。鶏肉のみならず、豚ヒレ肉などのカットにも対応する柔軟さも備えている。

今回のウェビナーでは、同社技術本部の土門晋氏が講師を務め、手切り作業からの移行や、これまで外部から仕入れていたカット原料の内製化によって、どれほどの費用対効果が生じるかを具体的なモデルケースを用いて分かりやすく解説する。「自社の現場には機械が大き過ぎる」「設定や清掃の負担が不安」として、これまでポーションカッターの導入を見送ってきた事業者にとっても、「小型・低コスト・簡単操作」を実現した同機の提案は、自社に最適な“ちょうどいい”自動化ソリューションを知る貴重な機会となる。

開催は両日とも午後2時からの約40分間で、参加費は無料。Zoomを使用したオンライン形式のため、全国どこからでも参加が可能だ。

[開催概要]日時:2026年6月25日（木）14～14時40分、7月8日（水）14～14時40分※どちらの回も同じ内容▷形式：Webセミナー（Zoom配信）▷講師：なんつね 技術本部　土門晋氏▷参加費用：無料▷問い合わせ：なんつね マーケティング戦略チーム、質問メール：info@nantsune.co.jp▷詳細は右QRコードのお知らせから。

マキヤが神戸物産と業務提携、両者の仕入れネットワークを活用

静岡県を中心にスーパーマーケットを運営する㈱マキヤ（静岡県富士市）は26日、㈱神戸物産（兵庫県加古川市）と資本業務提携すると発表した。

マキヤは神戸物産とフランチャイズ契約を結んでおり、業務提携により、神戸物産グループの総菜事業「馳走菜」へのマキヤの強みであるアウトパック商品の導入、両社の仕入ネットワークを活用した共同仕入れ、マキヤにおける業務スーパーの出店検討が見込まれている。

マキヤはエスポット、ポテト・マミー、業務スーパーなどを運営。神戸物産は、業務スーパー店舗をフランチャイズ方式で展開する他、外食・中食事業および再生可能エネルギー事業も展開するグループの中核企業。今回の締結により、筆頭株主は㈱マキリから神戸物産となる。

[輸入牛現物相場] 相場は変わらずだが、荷動きは停滞

豪州産チルドは5月末段階では、全体の引き合いが弱まっている。これまでは在庫量と引き合いで相場が保たれていたが、在庫潤沢・引き合いの弱まりという環境変化で相場が下落することも考えられる。ただ、現在では大きな値崩れには至っておらず、模様眺めの状況。仕入コストは現在も高い状況だが、今後も上昇する見通しであるため、大きな変動にはならないか。

米国産はバラ系を中心とした引き合いで、こちらは仕入れも比較的抑えていることから在庫は適量で推移している。フローズンも引き続き、豪州産、米国産共に引き合いは停滞傾向。仕入コストが高いため、在庫が増え過ぎないように買い付け量を抑えて相場を維持している。

【輸入牛肉現物相場】　円／キロ

		グラス	ショートグレイン
豪州産C	トップサイド	1,650 ～ 1,800	1,700 ～ 1,850
	シックフランク	1,500 ～ 1,700	1,640 ～ 1,750
	アウトサイド	1,610 ～ 1,700	1,620 ～ 1,750
	ポイント	1,380 ～ 1,680	1,450 ～ 1,700
	ナーベル	1,200 ～ 1,250	1,250 ～ 1,400
	ランプ	1,650 ～ 1,920	1,900 ～ 2,100
	クロッド	1,350 ～ 1,400	1,550 ～ 1,800
	チャックロール	1,600 ～ 1,800	1,850 ～ 2,100
	チャックテンダー	1,450 ～ 1,650	1,550 ～ 1,850
	キューブロール	3,400 ～ 3,700	3,900 ～ 4,500
	ストリップロイン	2,600 ～ 2,750	3,000 ～ 3,350
	テンダーロイン	4,200 ～ 4,750	5,200 ～ 5,500
豪州産F	チャック＆ブレード	－	－
	ポイント	1,520 ～ 1,560	－
	ナーベル	1,050 ～ 1,280	－
	カウミート	1,150 ～ 1,320	－
	トップサイド	1,400 ～ 1,450	－
	シックフランク	－	－

		チルド	フローズン
米国産	ショルダークロッド	1,700 ～ 1,800	1,550 ～ 1,650
	ショートプレート	1,280 ～ 1,350	1,100 ～ 1,250
	ボンレスショートリブ（チョイス）	5,850 ～ 6,550	－
	チャックリブ（チョイス）	2,700 ～ 3,560	2,250 ～ 2,350
	ストリップロイン（チョイス）	4,300 ～ 4,800	－
	リブアイロール（リップオン）	5,200 ～ 5,500	－
	テンダーロイン	5,700 ～ 6,000	－
	チャックアイロール（チョイス）	2,650 ～ 2,850	2,000 ～ 2,300
	同（プライム）	2,700 ～ 3,110	2,500中心

[ブロイラー市中現物相場] 輸入物ブラジル産、タイ産とも軟調

◇国産物　ゴールデンウイーク以降、やや荷動きは鈍り気味だが、生鮮モモの日経荷重の東京相場は840円台で推移している。資材、飼料などの高騰も影響しているものと考える。生鮮ムネも涼味商材としての需要期を前にやや動きは鈍いが、490円前後で高止まり。冷凍物はGW以降やや荷余り感が出て、モモ正肉はやや値を下げた。

◇輸入物　輸入量が回復し、季節なりに揚げ物用途での需要がやや薄くなったこともあり、ブラジル産モモ正肉、カット物とも軟調。タイ産モモ正肉もつられる形で値を下げた。世界的なエネルギーコストの高騰もあり、現地価格は高く、また、円安も続いているため、例年との比較では高値域にある。

ブロイラー現物相場　単位：円／キロ

国産冷凍物	
モモ正肉（産地凍結）	720～760
ムネ正肉（〃）	400～480
手羽モト（〃）	300～350
手羽サキ（〃）	玉なし
砂キモ（〃）	玉なし
ササミ（〃）	380～500

単位：円／キロ

輸入物	
米国産モモ正肉(240gUP)	玉なし
米国産ジャンボレッグ(350gUP)	350中心
米国産BIL	530～550
ブラジル産モモ正肉	650～680
ブラジル産モモ角切り	830～850
ブラジル産皮なしモモ正肉	780中心
ブラジル産グリラー（1000gUP）	450～470
ブラジル産手羽サキ(50gUP)	600中心
タイ産モモ正肉	700～750
タイ産モモ角切り（25～30g）	830～850
米国産モモ串	玉なし

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

［東京食肉卸売市場］　5月28日
枝肉卸売価格（瑕疵除く）（頭、1kg当たり円、税込み）

◇ 牛生体			5	4	3	2	1
和牛	雌 A	高値	3,115	2,712	-	-	-
		安値	2,280	2,250	-	-	-
		平均	2,599	2,436	2,435	-	-
	88頭	頭数	69	18	1	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	2,420	-	-	-	-
	1頭	頭数	1	-	-	-	-
	去 A	高値	2,957	2,652	2,522	-	-
		安値	2,327	2,355	2,259	-	-
		平均	2,585	2,466	2,437	-	-
	152頭	頭数	119	29	4	-	-
	去 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	2,205	2,246	-	-	-
	2頭	頭数	1	1	-	-	-
乳牛	雌 B　-頭	平均	-	-	-	-	-
	雌 C　-頭	平均	-	-	-	-	-
	去 B　-頭	平均	-	-	-	-	-
	去 C　-頭	平均	-	-	-	-	-
交雑牛	雌 B	平均	-	1,814	1,768	1,708	-
	8頭	頭数	-	1	4	3	-
	雌 C	平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
	去 B	平均	-	1,818	1,804	1,779	-
	17頭	頭数	-	5	9	3	-
	去 C	平均	-	-	1,610	1,620	-
	2頭	頭数	-	-	1	1	-

	牛	豚	搬入牛	搬入豚（競り）	搬入豚（相対）	その他
と畜	265	938	-			
売買	344	911	226.0	-	6	60

◇ 牛搬入		5	4	3	2	1
和	雌 A	2,531	1,782	1,780	1,687	-
	B	-	-	1,744	1,461	-
和	去 A	2,388	-	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳	雌 B	-	-	-	1,245	1,212
	C	-	-	-	1,234	1,223
乳	去 B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交	雌 B	1,913	1,827	1,749	1,698	-
	C	-	-	-	1,366	1,245
交	去 B	1,901	1,836	1,749	1,715	-
	C	-	1,638	1,631	-	-

◇ 豚		［極上］	［上］	［中］	［並］	［等外］
生体	高値	659	811	757	930	924
	安値	654	620	583	443	356
	平均	657	652	631	604	505
	頭数	(2)	(394)	(292)	(117)	(106)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入相対	高値	-	-	-	-	508
	安値	-	-	-	-	508
	平均	-	-	-	-	508
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(6)

［大阪食肉卸売市場］　5月28日
枝肉卸売価格（生体）（1kg当たり円、税込み）［ ］は豚規格

	5［極上］	4［上］	3［中］	2［並］	1［等外］
和 雌 A	2,601	2,276	2,161	-	-
（頭数）	(14)	(5)	(1)	(-)	(-)
B	-	2,394	-	-	-
（頭数）	(-)	(1)	(-)	(1)	(-)
和 去 A	2,885	2,357	2,161	-	-
（頭数）	(12)	(1)	(1)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
（頭数）	(-)	(-)	(2)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,905	1,852	1,836	-
C	-	-	1,861	-	-
交雑去 B	2,075	1,975	-	1,821	-
C	-	-	-	-	-
豚	-	643	634	513	486

と畜	牛　54 頭	豚　98 頭	牛概況	もちあい
売買	牛　61 頭	豚　109 頭	豚概況	上伸

［全国と畜概算頭数］
農水省統計部発表　（頭）

	5月28日	5月27日	（5月累計）
豚	64,700	58,200	1,202,700
成牛計	3,620	3,750	76,570
和牛雌	810	870	19,220
和牛去勢	860	1,130	20,620
乳牛雌	860	480	10,490
乳牛去勢	450	550	8,360
交雑雌	370	270	8,900
交雑去	270	450	8,810

［去勢牛 B3・2 規格　枝肉取引価格］5月28日

東京	1,776 円	（前日　1,769 円）
大阪	1,887 円	（前日　- 円）

［豚・全農建値］　5月28日

上	中	取引頭数	市況
672 円	650 円	1,221 頭	続落

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

［主要市場豚枝肉卸売価格］　5月28日　（1kg当たり円、税込み）

	上加重	（前　日）	中加重	（前　日）	と　畜	上　場	市　況
北　海　道［セ］	691	（ 691 ）	-	（ - ）	5,940	-	もちあい
仙　　台［中］	645	（ - ）	576	（ - ）	339	24	続伸
栃　　木［地］	669	（ 685 ）	609	（ 617 ）	1,458	102	急落
茨　　城［地］	693	（ 689 ）	645	（ 656 ）	1,084	656	小幅高
群　　馬［地］	699	（ 686 ）	598	（ 585 ）	2,014	179	反発
さいたま［中］	689	（ 686 ）	682	（ 682 ）	122	125	もちあい
東　　京［中］	652	（ 670 ）	631	（ 630 ）	938	911	続落
横　　浜［中］	677	（ 686 ）	638	（ 629 ）	663	663	反落
山　　梨［地］	709	（ - ）	686	（ - ）	176	176	反発
浜　　松［地］	-	（ - ）	-	（ - ）	-	-	競り休止
名　古　屋［中］	669	（ 691 ）	653	（ 668 ）	761	283	反落
京　　都［中］	650	（ - ）	658	（ - ）	76	89	もちあい
大　　阪［中］	643	（ 630 ）	634	（ 596 ）	98	71	上伸
神　　戸［中］	680	（ - ）	659	（ - ）	47	134	-
岡　　山［地］	670	（ 678 ）	646	（ 643 ）	225	303	もちあい
広　　島［中］	-	（ 677 ）	-	（ 651 ）	351	-	-
福　　岡［中］	680	（ 680 ）	644	（ 643 ）	491	99	もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

［日本食肉流通センター］　5月21日～5月27日
豚カット肉［Ⅰ］（1kg当たり円、税込み、重量kg）

◇首都圏　総重量　1,780,139 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,239	1,350	1,404	1,344	74,551
う　で	819	885	901	874	130,100
ロ　ース	1,188	1,279	1,350	1,261	180,841
ば　ら	1,350	1,399	1,445	1,395	156,233
も　も	842	864	929	875	206,825
ヒ　レ	1,146	1,220	1,381	1,239	12,348
セ　ット	1,043	1,098	1,118	1,090	1,019,241

◇近畿圏　総重量　703,075 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,296	1,493	1,529	1,453	54,959
う　で	784	861	885	838	122,554
ロ　ース	1,188	1,296	1,361	1,293	83,543
ば　ら	1,328	1,447	1,494	1,428	114,611
も　も	842	883	923	878	161,790
ヒ　レ	1,268	1,404	1,512	1,406	9,838
セ　ット	985	1,076	1,230	1,086	155,780

［食鳥正肉日経相場］　5月27日
荷受売値平均値（kg当たり円、税抜き）

◇東京（8社）※休載

	安　値	加重平均	高　値	販売量（t）
モ　モ	-	-	-	-
ム　ネ	-	-	-	-

◇大阪（2社）

	安　値	加重平均	高　値	販売量（t）
モ　モ	781	840	1,050	4
ム　ネ	436	494	610	2

［農水省統計情報部食鳥市況］　5月26日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モト	手羽サキ	ササミ
高　値	1,037	680	550	600	650
安　値	750	460	290	360	350
平　均	854	494	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日期間中（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50％に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分　位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

週刊 食肉通信

食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランケット判8～12ページ、価格は年間25,000円（税・送料込）

日刊 食肉速報

食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産（牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、ブロイラー）と輸入（米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など）の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円（税・送料込）　※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル

食肉の流通チャネルが多元化する中で、その時々の最も話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総菜の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月上旬、B5判120～150頁、価格は年間23,100円（税・送料込）

■業界動向がデータでわかる

数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年１回発行。

B5判 472頁　4,191円（送料別）

■畜産・食肉業界の動向大全

日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁　14,850円（送料別）

◆食肉販売＆経営関連

銘柄牛肉ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁　定価2,500円（送料別）

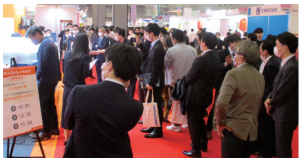
銘柄豚肉ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁　定価2,200円（送料別）

◆イベント

■国内で唯一、最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚しい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

（HP）
https://www.shokuniku-sangyoten.jp/

◆教材＆レポート等

■あなたの常識を強固にする

今さら聞けない肉の常識

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は？など66の常識をわかりやすく解説。

平野正男 鏡　晃 著

A5判 152頁　定価1,500円（送料別）

■～食肉のプロフェッショナルを育てる～シリーズ

牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁　定価3,000円（送料別）

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版

牛枝肉・部分肉の分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁　定価5,500円（送料別）

■知識を豊かにする

食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編　A5判 506頁　定価7,000円（送料別）

◆ステーショナリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm　定価990円　※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXでお近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大　阪　〒550−0005 大阪市西区西本町3−1−48　TEL 06（6538）5505　FAX 06（6538）5510
■東　京　〒101−0021 東京都千代田区外神田2−14−10　TEL 03（6206）0929　FAX 03（6206）0928
■九　州　〒812−0029 福岡市博多区古門戸町3−12　TEL 092（271）7816　FAX 092（291）2995